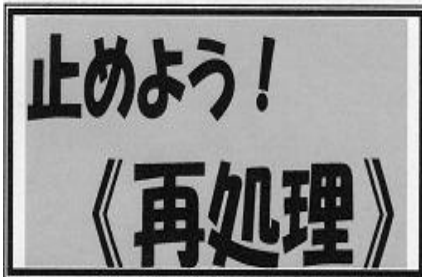


**三陸の海を放射能から守る**  
**岩手の会** (略称) 三陸の海・岩手の会  
 郵便振替 02240-5-102650  
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》  
 2019(平成 31)年  
 4月 8日  
 第195号  
 編集事務局 S.Oshida  
 TEL・FAX 019-623-1636

# 『再処理適合性審査書』(合格証草案) 審議

## 原子力規制委員会(5人)で疑問続出 異例の再審査へ



原子力規制委員会 (5人)

◇第67回原子力規制委員会  
<http://www.nsr.go.jp/disclosure/committee/kisei/00000416.html>



説明委員  
(規制庁担当者など)

再処理工場の新規制基準適合審査申請書が出されてから五年。「事故対策」と「地震津波対策」に分けての審査は、去る一月二八日の第二五七回審査会合で、まどめの段階に入ったとされました。審査会で作成した合格証に当たる「再処理適合審査書(草案)」が事前に原子力規制委員会へ配布され、三月二〇日の第六七回原子力規制委員会で公開し検討されました。

五人の原子力規制委員間で相互に疑問点や質問が出され見解の一致に至っていない事項が存在することが判明し、委員会は審査会合の再開を求めました。

原発に比べて膨大な放射性物質が存在する「再処理工場の安全審査」は、少しでも危険であるならば、中止・撤退を含めて疑問の余地のない厳格な審査が要求されます。

### 原子力規制委員会 動画や資料を見よう

第六七回原子力規制委員会は原子力規制庁の会議室で、規制庁の各担当幹部十余人ほどを交え開催されました。その様子は規制委員会ホームページで公開され、動画映像や会議録、会議資料が見られます。

更田豊志委員長、山中伸介委員、伴信彦委員からの「草案」への質問に対し、田中知委員(事故対策審査会委員長)、石渡明委員(地震津波対策審査会委員長)がきちんと答えられない項目がありました。委員会は質

問関連の疑問点について確認を行い草案の書き換えを必要と認め、再度審査会合や事業者からの聞き取りなどの再審査を行うこととしました。

### 草案への主な疑義 (議事録参照)

- ◆ プラント分野では航空機落下の確率計算値と航空機落下火災との関係が説明不足。
- ◆ 地震起因の臨界事故発生は想定しない、の根拠。
- ◆ 廃液が機器故障で蒸発し、内圧が高まったときの放出方法や、「蒸発乾固」迄の沸騰現象、硝酸濃度変化などが精緻さが不十分。「乾固」に至る場合どこで注水するのか。臨界との関係も。
- ◆ 水素爆発で発生するエネルギー量。水素爆発事故の過程や「緩和」対策方法の現実性が説明不足。
- ◆ 自然災害分野では、基準地震動(最大の揺れ)に影響する敷地近くの「出戸西方断層」評価、八甲田火山の噴火予見の場合のガラス固化体の搬出の例示は非現実的。噴火履歴について不十分審査の過程での

◆ アクティブな炉を持つ原発と、静的であるが放射性物質が格段に多い再処理工場での事故の違いの認識不十分。

◆ 事業者の「ヒアリング」では確認したものの、公開審査会合では是非判断では触れられなかった論点の再審査。

◆ 審査事項の具体的な事象分析と対策判断根拠の説明不足など。

### 旧西独のシミュレーションに学べ!

私達は再審査の方針に注目します。少なくとも◆高レベル廃液の乾固生成物がさらに熔融、揮発又は硝酸塩爆発に至る迄の評価と対策を厳密に行うこと。

◆西独で行っているように高レベル廃液の重大事故評価では、ルテニウムだけでなくストロンチウム90やセシウム137等全ての核種の環境汚染の予測をすること。

旧ソ連ウラルの核惨事被害や一九七六年西ドイツ政府のシミュレーション(1982年)報告に学ぶ必要があります。この問題について川田龍平議員から今国会へ質問主意書を提出して戴く予定です。

# さようなら原発 岩手集会

基調講演 講師 飯田哲也氏

地域からのエネルギー大転換

三月十日(日) さようなら原発岩手集会在、岩手県民会館に約三八〇人が結集し開催されました。集会では、(NPO法人)環境エネルギー政策研究所所長の飯田哲也氏の「地域からのエネルギー大転換」と題する基調講演がありました。

## 自然エネルギーの急速な発達

飯田氏は、スライドを使って、現在世界では急速に太陽光発電や風力発電が技術的に長足な

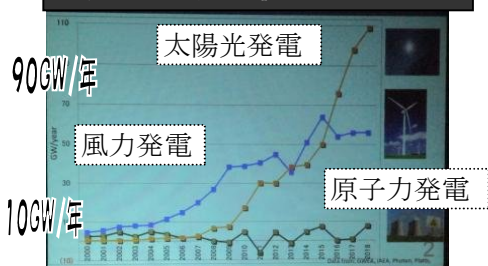
進歩を遂げており、その普及は目を見張るものがあると言説しました。例えば左図の折れ線グラフのように原子力発電量(ギガワット/年)

が停滞しているのに対して太陽光や風力発電量が急速に成長している事がわかります。

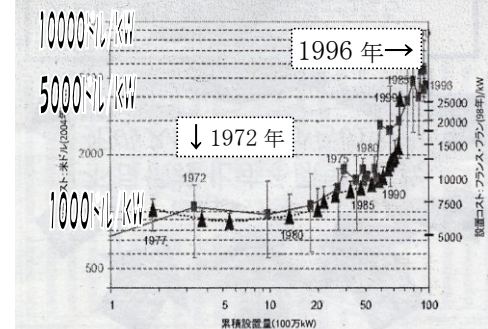
## 原子力発電所は減少へ

また今や世界では原子力発電は安全対策に巨費が必要で、しかも後始末費用を入れると採算の合わない無駄な資産となっていると指摘しました。

## 加速する自然エネルギーの拡大



## 世界の原発は作れば作るほど高くなる

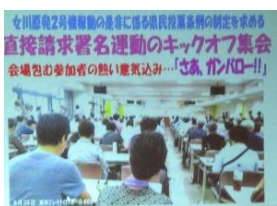


ata: US from Koomey and Hultman 2007, France from Grubler 2009. Diagram from GEA forthcoming

## 女川原発稼働の是非 宮城県民投票条例制定運動の報告



盛り上がる市民の力



## 県民投票実現の会 多々良哲さん

東北電力女川原発2号機の再稼働について宮城県民がその是非をみんなで決めるべきであるとして、「県民投票条例」制定の直接請求署名運動が行われました。十一万票の署名を集めた住民請求を成功させた「県民投票実現の会」代表の多々良哲さんの報告を受けました。

### 県知事の同意は 県民の同意なのか?

東北電力は女川原発2号機について「安全対策工事」を進め、原子力規制委員会の審査も年内了承(合格)が予想

されます。再稼働について県知事の同意が「地元同意」とされて実際に影響を受ける県民の声は反映されない。これはおかしい。住民自治に反

する事であるとして、地方自治法による県民投票を実施して住民自身の判断を行おうという声が起こりました。

### 条例制定には有権者の1/50の署名

「県民投票条例制定」には宮城県有権者の五十分の一(約四万筆)の法定署名(生年月日明示の署名と捺印)が必要です。署名期間は二ヶ月。署名

## なぜ? 宮城県議会 県民投票条例を否決

- 賛成 21人 (県民の声 9、共産党 8、社民党 2、無所属 2)
- 反対 35人 (自民会派 30、公明会派 4、21世紀クラブ 1)
- 退席 1人 (自民会派 1)
- 総数 57人 (議長を除く)

## 《宮城県民の多数の声》を 《宮城県議会》はどう聞くべきだったのか?

女川原発再稼働の YES or NO について、宮城県民投票条例運動の報告を聞いた。たった二ヶ月で11万票。あの原発事故の恐ろしさ知った住民大多数は「いますぐ原発止めよう!」なのである。自然エネルギーはこれからの話であるが、現状でも、天然ガスコンバインドサイクル発電や最新型粉末石炭火力発電はそれほど煤煙も出さず電気は足りてる。沖縄に続いて宮城でも、県民レベルの住民投票成立は目前であった。残念ながら宮城県議会は住民の生の声を聞く絶好のチャンスを逸してしまった。秋の県議選挙では、住民の声を責任を持って聞く議員が多く当選するだろう。(尚)

を集めることが出来るのは直接請求代表者の委任を受けた該当市町村住民の「受任者」のみです。昨年十月一日〜十二月一日の署名運動で十一万票を超えた。この困難な署名運動は素晴らしい体験でした。なんと、法的に必要な約四万票の三倍近い十一万票を超える署名が集まりました。各市町村でみんなが創意をこらし、楽しく運動が進められました。キックオフ集会には予想を超える人数が集まり、街頭署名活動では、一斉に署名をしてくれる盛況でした。